

JOMA通信



Japan Overseas Missions Association 海外宣教連絡協力会 公報 No. 78号

宣教の門が開かれている。

Ⅰコリント 16：9

インマヌエル富士見台キリスト教会牧師
2016年度 JOMA 書記
野田 禎

私は、インマヌエル総合伝道団 (IGM) の野田と申します。2年前に、当教団から JOMA (海外宣教協力会) の担当者になるように依頼があり、現在 JOMA の書記と、OMF (国際福音宣教会) の日本委員をさせて頂いています。

JOMA と言ったら、宣教師の写真が入ったカレンダーを思い出す方が多いと思います。教会や、家庭にカレンダーを貼って、宣教師とその家族の為に祈りをして下さる、その祈りの勇者によって

宣教の業は進められています。今年はカレンダーではなく、宣教師の写真入りの祈りの課題が、今回の通信に挟み込まれています。(楽しみにしていた方ご免なさい！)

今回 IGM 派遣の宣教師の写真が1つ無いのにお気づきの方もありません。それは三森邦夫・加寿子元宣教師です。(この春の教団の教団年会で引退をしました。)

47年の宣教師生活で、1970年から1979年まではインドのベテル農場で農業技術宣教師でした。その後1983年までアメリカの神学院で学び、「さあ、インドに再赴任」というときに、インドは宣教師としての入国を認めなくなってしまいました。しかし、神さまはボリビアに道を開かれ、何と32年間宣教の働きが続けられてきました。最初の8年は日系移民関係のみでしたが、その後、現地の様々な層の方々

32年前

三森師ご夫妻 (元ボリビア宣教師)



日本からの宣教訪問団を迎えて

洗礼式

へと宣教の働きが広げられてきました。神さまが先生方を通して育ててくださった、日ボ福音教会では、信徒の中から現在3名が大学の神学部に通っています。(ボリビアは大学の神学部をでなければ、教会の牧師として認めないという政策変換がされました。)そして信徒のリーダーたちが訓練され、宣教を力強く進めています。

三森先生方が日本に引き揚げてくるときに、「全く心配していません。成長させてくださる神さまがおられますから、神さまが彼らを守り、そして宣教を進めてくださいます。」とのお証しを聞きました。

神さまは、宣教師を通して蒔かれた種を成長させてくださり、宣教の門を開いて下さっています。さらに宣教師が送られることを、また、ビジネスマンが、留学生が宣教師として用いられることを祈って行こうではありませんか。

= 21世紀の世界の現実と 東アジアにおけるキリスト教の宣教について =

(2015年7月 OMF インターナショナル 150周年記念集会における
マレーシア人・フワ・ユン牧師のメッセージの要約)

非西洋の国々の教会が宣教を担うようになってきた。150年前、イギリスがもっとも影響力のある国であり、ハドソンテラーの宣教は中国人の魂が救われることであった。現代世界においては、中国はアメリカと肩を並べるほどの大国となった。中国の社会学研究者のコメントに次のようなものがある。「過去20年に亘り西洋社会について研究した結果、我々は西洋文化の中心はキリスト教であることがわかった。だから、西洋はこれほど力を持ち続けている。キリスト者の社会的・文化的な生活における道徳的基盤が資本主義の出現を可能にし、民主的政治への移行に成功させた。我々はこのことを確信した。」このように中国にはキリスト者ではないが、聖書の価値観が中国という国家を作り上げると信じている人々がいる。現在、世界の人々の31.4%がキリスト者と言われている。宣教に関して6つの世界的な傾向が見られると私は思う。

1) 世界のキリスト教の中心の移動。

アフリカ、アジア、南アメリカの世界全体のキリスト者人口における割合は、1900年16.7%、2010年63.2%である。アジアにおいては、中国、インド、インドネシア、韓国、フィリピンで教会が成長している。1998年聖公会のランバス会議においてホモセクシャルのキリスト者を受け入れることができるか審議されたが、主に非西洋の教会指導者たちによって否決された。非西洋からのリーダーたちの方が保守的な教理を維持していることが明確となった。

2) 世界における異文化宣教師派遣国の変化。

1992年には35.6%、2000年には50.6%が非西洋（ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドを除く、Operation Worldより）からの宣教師の全宣教師数に対する割合である。多くの北アメリカの宣教団体では、引退する宣教師の働きを引き継ぐべき新人宣教師の数は足りていない。非西洋からの宣教師の数が、西洋人の数を超えた。米国で開かれているアーバナ宣教大会においては30%以上の参加者が非西洋人である。宣教師を送り出す教会はますます非西洋となる傾向が見られる。西洋はポスト・キリスト者、世俗化の波に飲み込まれ、キリスト教に対して敵対的な雰囲気もあり、異文化宣教への情熱を失いつつある。

3) キリストの弟子となることの理解が浅いという問題。

非西洋において教会が成長しているとはいえ、それらの地域での教会に問題がないわけではない。アジアでは、韓国において1960年代、70年代に教会は爆発的に成長したが、現在はむしろ縮小していく傾向にある。他の国々においても、表面的な信仰、縁故主義、お金や性的問題で失脚する牧師が増加している。アフリカにおいては、かつて東アフリカのルバイバルの中心であったと言われるルワンダにおいて悲惨な虐殺が起こったが、当時ルワンダでは国民の90%以上がキリスト者であったと言われている。その背景には「繁栄の神学」が広がっていたことが指摘されている。聖い品性が求められている。キリスト教の質が問われている。西洋においてはリベラル神

学や世俗化の影響で教会が弱体化し、かつてあったような教会学校で教育され忠実なキリストの弟子として育てていく子供たちはますます少なくなっている。「謙遜、誠実、質素な生き方」を目指すべきであるとケープタウン決議宣言でも強調されている。

4) 文明の発達に伴う国家間のダイナミクスの変化。

「冷たい戦争」以後の時代になった。サムエル・ハンチントン「文明の衝突」で記されていることが現実となっている。特に2001年9月11日の事件以降、アメリカ（と北大西洋条約機構）、ロシア、中国、イスラム圏、日本、インドなどの国々の間に緊張が生じている。もはや西洋だけが唯一の経済的・政治的パワーではなくなった。多くの国々が力をもつようになった。

次の数十年に宣教に関して二つに分かれていく傾向が見られるだろう。一つは、宣教がしばしば西洋の植民地主義や経済的優越のもとに進められたゆえにキリスト教は文化的に西洋のものだというイメージのままの宣教である。かつて中国人の知識人は次のように言った。「一人のキリスト者が生まれれば、一人の中国人が減る。」インドのある牧師は次のように言った。「インドはいのちの水を欲している。しかし、それはヨーロッパのカップに注がれるのではない。」福音の土着化・文脈化への努力は以前にも増して急務である。

もう一つは、伝統的な宗教の復興のただ中での宣教である。また、過激なイスラム主義、ヒンズー主義（インド）の台頭が見られる。様々な形の仏教がスリランカやミャンマーなどの国々で国家主義と結びついている。少数派であるキリスト者の信教の自由が脅かされている。ある地域ではキリスト者たちが信仰のゆえに殺害されている。

5) キリスト者の迫害。

グローバル化と近代化は必ずしも自由を生み出していない。2015年における世界の自由は、独裁政権、テロリストの増加などによって9年に亘って侵害され続けているという報告がある。(Freedom house, 2015) 迫害の背景にあるものは、宗教的国家主義、イスラム原理主義、独裁的不安定、世俗的非寛容である。迫害は全世界的になっている。アルカイダ、ISISの台頭によってキリスト者は深刻な迫害を受けている。シリアのある教会指導者は次のように言った。「私達は殉教は受け入れる。しかし、虐殺はNOだ。」

6) 福音はこの時代に生きる者とどういう関係があるのか。

ジョン・ストット師はある時スコットランド大学で学ぶ二人の大学生と話し、福音の真理を確信してもらおうと説明した。しかし、会話の最後に彼らは次のように言った。「福音が真理であるかどうかなんてどうでもいい。それは現代社会に生きる僕たちとは何の関係もないのです。」福音が今を生きる私たちにどういう関係があるのかという問いは重要である。

多くの人々は福音が真理なのかどうかよりも、現実生活において「役に立つ」のかどうかに関心がある。多くの人々が「繁栄の福音」に魅かれて行く理由がここにある。しかし、それらの教えに魅かれる中産階級や金持ちにとっては貪欲がその動機かもしれないが、多くの貧しい人々にとっては、貪欲というよりは、生き延びるための闘いなのである。アジアにおいて多くの人が、肉体的癒しや悪魔的な力からの解放を経験してキリスト者となる。香港やシンガポールの銀行員は「風水」（古代中国の思想で、建物や墓などのふさわしい位置を見極めるために用いられてきた、気の流れを物の位置で制御する思想。）に信頼し仕事をする。聖霊の超自然的な働きに無関心な西洋の合理主義的なキリスト教は非西洋に住む人々の心に届かない。近代化、経済発展、民主化、政治的安定、などのテーマについて福音は答えをもっているのかどうか人々は知りたいと思っている。

(日本語への要約：菅家庄一郎)

東京フリー・メソジスト教団宣教委員会

- ▶ タイのチェンマイに派遣している野尻孝篤宣教師・明子宣教師のために。牧会しているチェンマイ日本語キリスト教会の成長のため。健康が支えられるように。ビザの更新手続きがスムーズに進められるように。
- ▶ 高木牧人師のため。2017年度中に北米ホーリネス教団への宣教師としての派遣を目指しています。必要な手続きが進められるように。日本での準備期間も守られるように。
- ▶ 宣教委員会の働きを通して、教団の10教会の視野がさらに世界宣教のために開かれていくように。

東洋ローア・キリスト伝道教会

- ▶ 当教会の海外に関係である「第14回アジアろうあ宣教大会」は、2017年7月18日（火）～21日（金）香港のリーガル・リバーサイドホテルで開催されます。このためにお祈りください。
- ▶ 毎年フィリピンのろうあ教会のために当教会の講師を派遣するためにお祈りください。

南米宣教会

- ▶ 南米宣教会からブラジルに派遣されている佐藤浩之・文代宣教師夫妻は既に70代になっていますが、任地オザスコのみならず、ブラジルの奥地まで宣教活動に出掛けています。健康が守られ、働きが祝福されますようにお祈りください。
- ▶ 佐藤宣教師に続いて、ブラジル日系人宣教を担って下さる働き人が与えられますように！
- ▶ マナウスにあるジョセフィーナ学校の働きがクリスチャンスクールとして、更に地域に信頼され、良い証が立てられ、用いられていきますように。

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団海外伝道部

- ▶ 派遣されている丸山陽子宣教師（台湾）、吉原博克宣教師（フィリピン）、矢吹大介・抛子宣教師（米国）、関本英樹宣教師（フィリピン）の働きの祝福。
- ▶ 宣教師家族の一人一人の祝福。
- ▶ 新しい宣教師を派遣するための準備が整えられますように。
- ▶ 8月に行われるフィリピン体験ツアー及び台湾体験ツアーの祝福。

JOMA Information

世界宣教関係イベント情報

総会案内

日程：4月25日（火）
場所：OCCビル415室

セミナー 11:00～12:30（オープン）
昼食と交わり 12:45～13:30
総会 13:30～15:30

*セミナー

全体テーマ

「世界宣教の働きにおける危機管理」

OMF ソーシャルメディア、通信面

「IT時代の世界宣教：その可能性と危険性」
菅家庄一郎氏

ウィクリフ

「アジア人、特に日本人特有の問題」
土井圭子氏

アンテオケ宣教会

「日本の教会からの宣教師派遣における危機管理」
松崎ひかり氏

アンテオケ宣教会

- ◆ アンテオケ宣教会創立40周年記念
オープンフォーラム

日時：2017年11月23日（木・祝） 14:00～16:00
場所：お茶の水クリスチャンセンター 8階チャペル
*お問い合わせは、jimukyoku@jantiochm1977.net まで

日本ウィクリフ聖書翻訳協会

- ◆ 異文化宣教セミナー2017西日本（入門コース）

日程：2017年7月13日（木）～15日（土）
会場：関西セミナーハウス<修学院きらら山荘>

- ◆ 異文化宣教セミナー2017東日本

（入門・実践コース）
日程：2017年9月7日（木）～16日（土）
会場：軽井沢フェローシップバイブルキャンプ

- ◆ ウィクリフ・カフェ（関西）

日程：2017年10月28日（土）13:30～16:00
会場：北浜スクエア